

問題一 次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

時間表現のあり方やそれを支える記号表現の慣習が時代や地域とともに大きく変化してきたことはいまでもないが、まずは「マンガ」という言葉にどのような外延を与えればよいかという定義の問題は脇に置いて、現在の日本でそう呼ばれていることが間違いないであろう対象のなかからいくつかのイメージを取り出してみたい。このコマ（図1）では、中央に発話する少女が、そのうしろには彼女の発言に対する他の少女たちのリアクションが描かれている。まず発話があり、次にリアクションがあることは明らかだ。時間的なずれは、向かいあった人物のような、空間的に引き離された表象間ではなく、重ねあわされた表象間にもごく普通に生じうる。これは一つのイメージに時間的な厚みが仮託されているといった事態ではない。⁽¹⁾同じような場面を映画に撮影し、フィルムの中からこの場面に相当する一コマを取り出そうとしてもそれはできないだろう。まず発話があり、次にリアクションがあったのであって、それが共存するコマは存在しないはずだからだ。とはいえ少女の口の動きはわずかなものであり、フィルムから取り出したあるコマにこのようなフキダシをつけてしまえば、いわゆるフィルム・コミックを作ることも不可能ではないのだから、コマのなかの矛盾は無視できる程度のものであることもできるかもしれない。だがたとえそのような「ごまかし」が可能だとしても、私たちがこのコマを、中央の少女の発話と他の少女のリアクションという二つの瞬間を捉えたものと解釈するという事実が変わらないはずだ。もう一つ例をふやしてみよう（図2）。



図1 河合克敏『とめはねっ！』第9巻、小学館、2012年、46ページ。
（ア、イ、ウ、エは設問のために付加）

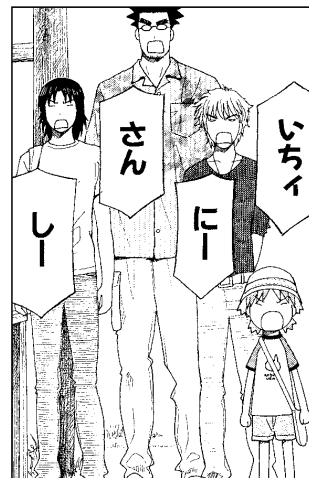


図2 あずまきよこ『よつばと！』第7巻、アスキー・メディアワークス、2007年、192ページ。

四人の人物は右から順に「いちい」、「にー」、「さん」、「しー」と号令を叫んだものと、私たちは理解する。これを一つの瞬間の表象と捉える限り四人は同時に口を開けていることになるが、⁽²⁾そう思う読者はいまい。ここに四つの動作の継起が表現されていることは明らかだ。だが当然のことながら、同じ場面を映画に撮影し、そのフィルムからこれに相当するコマを探し出すことはできない。マンガのコマが時間的な「幅」を持つという以上に、異なった瞬間を含むとは、こうした事態である。ただし、もちろんこれはマンガのコマが異なった瞬間を無限定に同居させようという意味ではない。たとえばここで、四人の人物が点コの際に、数字を叫ぶだけでなく手を上げて点コを強調したとしてみよう。するとコマのなかに、四人すべてが手を上げている画像を描くことは難しいだろう。そのときはコマを四つに分割する⁽ⁱⁱⁱ⁾か、一人の動作を代表して描き他の三人を何らかの手段で省略するなどの方法が必要になると考えられる。だが異なった瞬間が一つのコマのなかに、どのような条件で同居しうるかという問題はこれもまた脇に置いて、これら二コマのように複数の瞬間が混在するのではなく、一瞬であるはずの時間のなかで一度には知覚できるはずのない出来事が^(b)起しているような別の例も見えてくる。

一見してきわめて複雑な時間表象になっていることがわかる（図3）。気持ちをもつすぐ表現するのが下手な主人公が、めずらしく相手とその家族を守りたい心情を叫んでしまったあとで、自らの言葉と通りがかった人々の反応に驚き、^(a)「シーン……」とあるのは一つ前のコマで叫ばれた「ぼくもいますっつ」という言葉のあとに間があったことを示すが、通行人が驚くような動作の描かれたコマが挟まれることはなく、沈黙の間そ



図3 羽海野チカ『3月のライオン』第6巻、白泉社、2011年。

のものがこのコマの中に折りこまれている。だからこのコマのなかに、一瞬の沈黙とそれに続く **B** に満ちた時間が同居させられているのは明らかだが、さらにこの同時にセイ起したであろう複数の **B**、つまり二人の通行人と彼女たちそれぞれが連れている犬のせりふや、ほぼ同時であるはずの **A** した主人公の身振りを、読者は順を追って読み取っていくしかない。しかもそれを読み取ったうえで読者が、すべてをほぼ同時に生じたものとして理解するという点こそ肝心である。単なる街なかの **B** であれば、一つ一つ順番に耳に届いてきたものと考えられることも可能だが、ここでの複数のせりふは一瞬の沈黙のあとに一斉に発せられたものと考えなくてはならない。だがもし実際にこれらのせりふが一度に身の回りで発せられたら、そのすべてをはっきりと聞き取れるものはいないだろう。にもかかわらず私たちは、このコマに流れている時間を自然なものとは感じない。前に挙げた二つのコマで異なる瞬間が併存していたのとは逆に、ここでは一つの瞬間には受け取れないはずの体験が詰めこまれている。ここでもマンガのコマは「瞬間」を表現することから逸脱しているのである。

さらにコマのなかでは、異なつた瞬間というだけでなく、違う速さで流れる複数の時間が明示されることさえありうる。このコマ(図4)では弱小柔道部の部員たちが、新入部員の腕を試そうとしている。新人は実は東京都ベスト8の腕前なのだが、そうと知らない部員たちは大して注目もせずに会話をかわしている。その向こうでは新人が今まさに相手を投げようとしており、まわりを包む光の輪のようなものがこれからそこで何かが起きようとしていることを予感させるとともに、彼の足および下半身だけは輪カクがぶれていて、素早い動きに入っていることがわかる。次のページでは無数の動線とともに投げ技の決まるシーンが描かれるのだが、つまりこの



図4 村岡ユウ『むねあつ』、小学館、2012年、67ページ。

コマでは新入部員のまわりでだけ、すでに次ページにつながる時間が流れ出しているかのようだ。手前で会話をかわす男女にとつて、このコマではその会話の分の時間が流れているはずだが、場面奥で組みあっている部員二人の画像はほんの一瞬のものであることになる。するとこのコマの手前と奥では異なつた長さの時間が流れているはずだが、私たちはそれを見ながら不思議に思うことなく受け入れるのであり、したがってここでもやはり、コマが一定の長さの幅を持った持続を表現しているといっただけでは十分でないような時間が表されているといわなくてはならない。

マンガのコマは瞬間ではない。たとえある幅を持った時間的持続を考えたとしても、コマのなかの時間はその「幅」をさまざまな方向に溢れ出してしまう。ならばこんなふうに考えてみてはどうだろう。コマのなかの時間が合理化しようとする矛盾として見えてしまうのは、それが一つの瞬間であるはずだという前テイがあるからだ。しかしそこに描かれた個々の人物や事物は、それがそれとして、いわば一つのゲシュタルトとして認識されるなら、すでに個々別々の時間を生きてしまっているのではないか。間白によって仕切られた二つのコマのそれぞれにおいて異なつた時間が流れていると感じられるのと同様に、一つのコマのなかのおのおのの要素が別の時間の流れのなかにあると感じることもまた、自然なものではないか。右の人物は怒りの時間を、左の人物は恐怖の時間を、たとえ間白によって隔てられていなくても、おのおの別々に生きている。そしてそんなことが可能だとすればそれは、つまり描かれたすべてが、常にすでに動いてしまっているからではなからうか。いやそもそも私たちは、時間のなかにない対象を表象する能力、ある一瞬間にだけ属するイメージというものを描く能力を持っていないという余地があるかもしれない。

注 * 記号表現……文字や図像などによって意味を表すこと。マンガによる表現も記号表現である。

* 外延……ある概念の適用される事物の範囲。この場合、どこまでをマンガと呼べるか、ということ。

* 表象……かたちで表わされたもの。この場合、マンガ内の人物や個々の図像のこと。

* フィールド・コミック……映像作品をマンガ形式で読めるようにしたもの。

* ゲシュタルト……まとまった形態・姿。

* 間白……マンガのコマのあいだを区切るスペース。

問一——線部(i)～(v)は熟語の一部であるが、これと同じ読みの漢字を含む熟語を、それぞれ次の①～⑤の中から一つ選べ。

解答番号は、**①**～**⑤**。

- | | | | | | |
|-------------------|------|------|------|------|------|
| (i) 仮託 ① | ① 舌禍 | ② 花火 | ③ 化粧 | ④ 蓮華 | ⑤ 懸念 |
| (ii) 同居 ② | ① 委細 | ② 過去 | ③ 虚空 | ④ 遺跡 | ⑤ 拒絶 |
| (iii) 分割 ③ | ① 画期 | ② 活力 | ③ 合算 | ④ 超克 | ⑤ 勝機 |
| (iv) 逸脱 ④ | ① 一変 | ② 減免 | ③ 勤勉 | ④ 挽回 | ⑤ 統一 |
| (v) 持続 ⑤ | ① 官司 | ② 示唆 | ③ 大地 | ④ 次第 | ⑤ 治安 |

問二 — 線部(a)ゝ(e)のカタカナにあたる漢字を含む熟語を、それぞれ次の①ゝ⑤の中から一つ選べ。解答番号は、**6**ゝ**10**。

(a) 点コ **6**

- ① 車庫 ② 戸籍 ③ 孤独 ④ 固有 ⑤ 指呼

(b) セイ起 **7**

- ① 歓声 ② 規制 ③ 帰省 ④ 生涯 ⑤ 成就

(c) カわす **8**

- ① 換金 ② 代用 ③ 変化 ④ 交通 ⑤ 貿易

(d) 輪カク **9**

- ① 隔絶 ② 感覚 ③ 城郭 ④ 核心 ⑤ 比較

(e) 前テイ **10**

- ① 提案 ② 体裁 ③ 家庭 ④ 課程 ⑤ 指定

問三 — 線部X、Yの言葉の意味として、もつともふさわしいものを、それぞれ次の①ゝ⑤の中から選べ。解答番号は、**11**ゝ**12**。

X 仮託されている **11**

- ① 表面下に紛れ込まされている
② 一時的に信じられている
③ 偽物を本物と思い込まされている
④ その形を借りて表現されている
⑤ 示し合わせて悪企みをしている

Y いう余地がある **12**

- ① そのようにいうより他はない
② そのようにいう根拠がある
③ そのようにいうつもりである
④ そのようにいうのが妥当である
⑤ そのようにいえる可能性がある

問四 図1に描かれる人物の言動（ア、イ、ウ、エ）について、次のⅠ・Ⅱの問いに答えよ。解答番号は、**13**、**14**。

Ⅰ ア、イ、ウ、エの順序として、正しいものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。**13**

- ① ア→イ→ウ→エの順である。
- ② ア・イ・ウ・エが同時である。
- ③ アのあとで、イ・ウ・エが同時である。
- ④ ア・イが同時で、そのあとウ・エが同時である。
- ⑤ エ→ウ→イ→アの順である。

Ⅱ こうしたコマ内の言動の表現に対する筆者の分析として、正しくないものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。**14**

- ① 一つの瞬間であるとする矛盾がある。
- ② 二つの瞬間を捉えている。
- ③ 発話のあとでアクションがある。
- ④ 重ね合わされた表象間に時間のずれがある。
- ⑤ 一つのイメージに時間的な厚みが仮託されている。

問五 **A**・**B**に入る言葉として、もつともふさわしいものを、それぞれ次の①～⑤の中から選べ。**A**は二箇所、

Bは三箇所ある。解答番号は、**15**、**16**。

A **15**

- ① 赤面
- ② 緊張
- ③ 後悔
- ④ 心配
- ⑤ 興奮

B **16**

- ① ときめき
- ② ざわめき
- ③ きらめき
- ④ ゆらめき
- ⑤ ひらめき

問六 —— 線部(1)「同じような場面を映画に撮影し、フィルムの中からこの場面に相当する一コマを取り出そうとしてもそれはできない」の理由として、もつともふさわしいものを、次の①～⑤の中から選べ。解答番号は、**17**。

- ① 映画の撮影のあとに膨大なフィルムのなから特定のコマを見つけ出すことは手間がかかりすぎて、それを実際に行うことは困難だから。
- ② 映画の撮影では、複数の登場人物のせりふやリアクションの順番はあらかじめ決まっており、複数のことを同時に行うことはできないから。
- ③ 映画の撮影では、ある登場人物がせりふを言っている間に他の登場人物がずっと同じ姿勢を保ったままで複数のコマに映り込むことはできないから。
- ④ 映画を撮影したあと、フィルムから取り出したあるコマにフキダシをつけるにしても、少女のわずかな口の動きを無視

することはできないから。

⑤ 映画の撮影では、異なった瞬間はフィルム上の異なったコマに映されており、複数の瞬間が同じ一つのコマに映り込んでいる事態はありえないから。

問七

——線部②「そう思う読者はいまい」の理由として、もっともふさわしいものを、次の①～⑤の中から選べ。解答番号は、**18**。

- ① 人数を確認したりするために、順に番号を叫ぶという現実の慣習をあてにした表現だから。
- ② 日常の中では、四人の人物が同時に発言することは、発言が聞き取りにくくなるため禁止されているから。
- ③ 一般の読者は、マンガのコマには一瞬の出来事以外は描くことができないと固く信じているから。
- ④ 読者は、同じコマの中にフキダシが複数併記されている場合、それらが同時に発話されたものと思うから。
- ⑤ 同じコマに描かれているフキダシは、右から左の順に読むというルールがあることを読者が承知しているから。

問八

——線部③「マンガのコマは「瞬間」を表現することから逸脱している」の説明として、もっともふさわしいものを、次の①～⑤の中から選べ。解答番号は、**19**。

- ① マンガのコマは、映画のフィルムのコマがそうであるのとは違って、読者が一つの「瞬間」そのものをイメージすることが原理的にできない。
- ② 読者は、**図3**のコマが、その一つ前のコマのあとにあるはずの間を含み込んでいることを読み取り、複数の時間が同居していることに不自然さを感じる。
- ③ 読者は、**図3**のせりふや身振りを順に読み取っていくので、このコマにはその分の時間の経過があらかじめ余分に含み込まれている。
- ④ ある瞬間に複数のせりふが同時に発せられると、私たちはそれらの一つ一つをあたかもストップモーションのように時間がとまった状態として理解しようとする。
- ⑤ **図3**では、コマが一つの瞬間を捉えているかのようだが、読者はコマ内の複数の出来事すべてを時間をかけて把握するので、現実の「瞬間」の経験とは異なった表現になっている。

問九

——線部④「このコマの手前と奥では異なった長さの時間が流れている」の説明として、もっともふさわしいものを、次の①～⑤の中から選べ。解答番号は、**20**。

- ① 手前の部員たちの会話の奥で、組み合う二人の様子が描かれ、そこに同じ時間の経過を読み取ることができる。
- ② 手前でやりとりされている会話の中の一瞬がそこだけ切り取られて、奥で組み合う二人の時間とシンクロしている。

③ 手前で部員たちが会話する通常の時間の流れと、新人が相手を投げようとする凝縮された一瞬とが同じコマに併置されている。

④ 奥で組み合う二人の間で投げ技が決まるまでの時間と、コマの手前でやりとりされる会話の進行とが並行している。

⑤ 絵画の遠近法のように、描かれる対象の距離に応じて、近くの時間は遅く、遠くの時間は速く流れる様子が描かれている。

問十一 — 線部(5)「描かれたすべてが、常にすでに動いてしまっている」の説明として、もっともふさわしいものを、次の①

～⑤の中から選べ。解答番号は、**21**。

① マンガに描かれた人物の行動や状況の変化には強い一貫性がなく、つねに別の物語が別の時間の中に並行して現れる。

② 絵に描かれた人物や事物は、瞬間に閉じ込められることはなく、描かれた時点からそれぞれ個別の時間の中に存在している。

③ マンガに描かれたものは、現在の一瞬だけでなく、過去の行動や感情をもまとまって想起させるものとして理解される。

④ 絵に描かれた登場人物は、あらかじめ設定されたその人物のキャラクターを常に逸脱して行動する。

⑤ マンガが描かれた時点と読者がそれを目にする時点とは時間的な隔たりがあり、そのために描かれたものに変化が生じる。

問十一 この問題文の論旨として、もっともふさわしいものを、次の①～⑤の中から選べ。解答番号は、**22**。

① マンガにおいては、一つのコマの中に複数の動作の継起を描き出すことができる。その最大の理由は、マンガの一コマが時間的な「幅」を持つことである。

② マンガにおいては、一つのコマの中に複数の瞬間が並列的に描かれているものがある。これは、どのような場合でもマンガ一般にあてはまる特徴である。

③ マンガにおいては、複数のせりふや身振りが一斉に発せられるとき、一つのコマの中で、一つの瞬間には受け取れないはずの体験が詰め込まれていることがある。これもやはり「瞬間」の定着を基本とするマンガ独特の描き方である。

④ マンガにおいては、同じコマの中に違う速度で流れる複数の時間が明示されることがある。しかし、一瞬一瞬の積み重ねが長い時間に匹敵するように詳しく描かれるので、私たちはそれを何ら不思議に思うことなく受け入れている。

⑤ マンガにおいて、ゲシュタルトとして認識されるもののそれぞれが個別の時間を持つという事実は、コマの中の時間がただ一つの瞬間のみを表すものだという私たちの思い込みを覆す。

問題二 次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

八坂神社の近くの宿に私たちが着いたのは朝の六時半ごろだった。九月も半ばすぎているのに京都の秋は暑かった。窓のすだれ越しに塔が見えた。食事をすませ、⁽¹⁾少しく羞しいが床をしいて貰ってねた。急に思い立った旅行だったので、寝台も座席指定もとれず、三時間近くも八重洲口構内に並んだ。これが私たちの第二の新婚旅行としたら、一寸みじめに思われた。しかし、京都をまったく知らない妻にとっては、「立つても行きたい」という希いがあるので救われた。⁽²⁾幸い九時一五分発の《月光》に坐れた。隣の学生がしきりに拳法の話をするので、昨夜はなかなか眠れなかった。

私たちは十時に起き、コースを決めてタクシードで出発した。南禅寺の莊重な山門。その奥の樹木は十八号台風で荒れていた。それから慈照寺銀閣。銀沙灘と向月台の砂盛に、私はいつも寂寞と滑稽を感じる。詩仙堂は、私にとっても初めてのところだが、洛北の山里の風趣を今にそなわれず保っているのに心打たれた。観光客もまばらで、名高い「シシオドシ」と竹筒の音がよく聴えた。案内僧の説明を聞くより、私たちは美しい庭を歩いた。少し雨が降ってきた。「ここまできたんですから、三千院まで行きませんか」という運転手の言葉に私たちは一も二もなく同意した。大原の里はひろびろと緑一色に展けていた。雨に打たれた道は自動車の往来もまれで、埃も舞うことなく、まだ早い秋気が八瀬の辺りになるといくらか深くなると感ぜられた。緑のなかに曼珠沙華がところどころ炎のように澄んだ輝きを見せていた。妻は疲れからか、それとも恍惚からかクツシヨンに深く沈んでいる。久しい間、こんなに美しい曼珠沙華を見なかった。まさしく、誓子の、つきぬけて天上の紺曼珠沙華の絶唱を実感した。三千院（梨本門跡）に着いたら十二時近いので、運転手に食事代を渡し、そのかわり、ここはゆっくり待つて貰うことにした。いくら三分間十円の待賃が計上されても、タクシードを待たせるのは少しばかり気がせかれるものだ。雨はすっかり霽れた。洛北ズイ一の名園と称される聚碧園は美しかった。私たちは緑側に坐つて、刈込まれた前栽の遠方にある百万塔のような石の塔を見たり、笕からの水を飲んだりして休んだ。女学生も面白がって、よく水を飲んでいった。ここほど、清い水がゆたかに手水鉢をあふれ、笕をながれている所はあまりないと思われた。私たちは気がむけば他の拝カンの一団

にまぎれて説明をきき、また離れて、ザン新な構図、大タンな筆致の下村観山の虹の図を見た。うす暗がりに疲れると、下駄をはき、明るい瑠璃光庭へ出る。妻は心持がわるい位という「杉苔の大海原」をしばらく歩いた。それから私たちは、大原御幸で名高い建礼門院隠棲の尼寺、寂光院へ寄り、雑トウの金閣寺を一廻りして一気に嵐山へ向つた。西日の苔寺の枯山水の前にきたころは、さすがに私も妻も疲れた。渡月橋のほとり一日中乗った自動車と別れた。大堰川の清流と舟遊びの人たちを見ながらチョコレートを食べた。宿を出てから、はじめて物をたべたようだった。今日の終り、私は天龍寺へ入った。さすがに四時すぎ、拝カンの人はまばらで、方丈の裏座敷の畳へ思わず二人ともねころんだ。子供づれの若い夫婦も腹ばいになっていた。「ここがいちばん気に入ったわ」と妻は微笑した。それはひろびろとした冷たい畳にねそべり、憩いがおとずれたからだろう。嵐山、亀山の翠巒を借景した宋元山水画を思わせる莊重な天龍寺の庭、曹源池は夕暮れの裡にみごとだった。私にとっては四たび、妻にとっては初めてだが、板の床は母の腰のように坐りごちがよい。私の大きな眼と雲龍の巨大な眼光を並べて、妻は写真を撮りながら笑った。私はここにきて、ようやく妻の疲労が回復してきたのを悟った。別室で催していた川柳句会も終わったようだった。もう閉門の時がきたのであった。そして明日、私たちは龍安寺の石庭を、大仙院の庭を、そして広隆寺の弥勒菩薩を見るだろう。私のもつとも愛するあの弥勒菩薩。不祥事件で、美しい指を折られたあの永遠の像・弥勒菩薩半跏思惟像を、妻と仰げるだろう。四条河原町へ向うタクシードのなかで古都京都の秋は、私たちが去るころからはじまると思った。

(吉岡実散文抄・詩神が住まう場所)

注

- * 銀沙灘と向月台……銀閣寺（慈照寺銀閣）境内の、白砂を盛った造作物。
- * 詩仙堂……京都市左京区にある江戸時代の文人の山荘跡。現在は曹洞宗の寺院となっている。
- * 八瀬……京都市左京区の比叡山麓の地域。
- * 誓子……山口誓子。俳人。一九〇一～一九九四。
- * 聚碧園……三千院境内の庭園。
- * 百万塔……奈良時代に百万基製作された、高さ二〇cm程度の木製の小塔。
- * 下村観山……日本画家。三千院境内の宸殿という建物に虹のふすま絵を描いた。一八七三～一九三〇。
- * 瑠璃光庭……有清園ともいう。三千院境内の庭園。
- * 大原御幸……後白河法皇が建礼門院に会いに寂光院を訪ねたという、『平家物語』のエピソード。建礼門院は、平清盛の娘。壇ノ浦の戦いで入水死した安徳天皇の母。平家滅亡後に出家し大原の寂光院に入った。一一五五～一二二三。
- * 苔寺……京都市西京区にある西芳寺の別称。
- * 渡月橋……京都市右京区にある大堰川（桂川）にかかる橋。天龍寺の近く。
- * 翠巒……緑色に連なる山々。
- * 曹源池……天龍寺境内の池、およびそれを取り囲む庭園。

問一

——線部(i)～(v)は熟語の一部であるが、これと同じ読みの漢字を含む熟語を、それぞれ次の①～⑤の中から一つ選べ。

解答番号は、**23**～**27**。

- | | | | | |
|------------------|-------------------|--------------------|-------------------|------------------|
| (i) 寝台 23 | (ii) 莊重 24 | (iii) 滑稽 25 | (iv) 風趣 26 | (v) 往来 27 |
| ① 薪炭 | ① 縦覧 | ① 人形 | ① 殊更 | ① 横紙 |
| ② 左大臣 | ② 丁寧 | ② 写経 | ② 真珠 | ② 黄泉 |
| ③ 身幅 | ③ 苦渋 | ③ 恵方 | ③ 種火 | ③ 凹凸 |
| ④ 甘辛 | ④ 釣果 | ④ 軽業 | ④ 首筋 | ④ 山桜 |
| ⑤ 心得 | ⑤ 親潮 | ⑤ 蛩雪 | ⑤ 腫瘍 | ⑤ 奥方 |

問二 — 線部(a)ゝ(e)のカタカナにあたる漢字を含む熟語を、それぞれ次の①ゝ⑤の中から一つ選べ。解答番号は、**28**ゝ**32**。

- | | | |
|-----|-----|-----------|
| (a) | ズイ一 | 28 |
| ① | 生粹 | ② 完遂 |
| | | ③ 骨髓 |
| | | ④ 唯識 |
| | | ⑤ 随伴 |
| (b) | 拝カン | 29 |
| ① | 感動 | ② 観察 |
| | | ③ 鑑賞 |
| | | ④ 来館 |
| | | ⑤ 神官 |
| (c) | ザン新 | 30 |
| ① | 惨敗 | ② 暫時 |
| | | ③ 無残 |
| | | ④ 斬髪 |
| | | ⑤ 安産 |
| (d) | 大タン | 31 |
| ① | 魂胆 | ② 一端 |
| | | ③ 鍛錬 |
| | | ④ 悲嘆 |
| | | ⑤ 丹精 |
| (e) | 雑トウ | 32 |
| ① | 倒立 | ② 徒党 |
| | | ③ 踏査 |
| | | ④ 關魂 |
| | | ⑤ 葛藤 |

問三 ここで描かれる場面を時間順に並べたときの、最初（東京駅八重洲口に並び始めたとき）から最後（四条河原町に向かうとき）までの期間について、次のⅠ・Ⅱの問いに答えなさい。解答番号は、**33**ゝ**34**。

Ⅰ この期間に筆者が訪れた寺社を抜粋して順に並べたものとして、正しいものを、次の①ゝ⑤の中から一つ選べ。**33**

- ① 南禅寺↓慈照寺銀閣↓寂光院↓苔寺↓広隆寺
- ② 南禅寺↓三千院↓寂光院↓金閣寺↓天龍寺
- ③ 八坂神社↓慈照寺銀閣↓詩仙堂↓苔寺↓天龍寺
- ④ 慈照寺銀閣↓苔寺↓寂光院↓金閣寺↓天龍寺
- ⑤ 慈照寺銀閣↓三千院↓寂光院↓苔寺↓龍安寺

Ⅱ この期間におよそ何時間が経過したと考えられるか。正しいものを、次の①ゝ⑤の中から一つ選べ。**34**

- ① 9時間
- ② 18時間
- ③ 24時間
- ④ 36時間
- ⑤ 48時間

問四 — 線部(1)「少しく羞しいが床をしいて貰ってねた」の説明として、もっともふさわしいものを、次の①～⑤の中から選べ。解答番号は、**35**。

- ① わざわざふとんを敷いてもらって寝ることは、朝食後のふるまいとしては非常識ではずかしかったが、東京から京都まで立ちっぱなしで疲れていたためやむを得なかった。
- ② 夫婦とはいえ男女が一緒に寝ることははずかしいことだけれども、ゆかにねそべる場所をあけてもらって少し寝る分には、それほど周囲に差し障りがないので、そのようにした。
- ③ 食べた直後に横になることは、大人のマナーにはずれることなのではずかしかったが、東京からの列車の車中で乗り合わせた学生の話がうるさく睡眠不足だったので仕方がなかった。
- ④ 朝から寝ることは奇異な目で見られそうではずかしかったが、急に思い立った旅行だったので、日中は寝て夜に起きてから観光をするというスケジュールにすることが避けられなかった。
- ⑤ 着いたばかりの宿で朝からふとんを敷いてもらって寝るという行為は、普通ではないのではずかしかったが、前日の夜によく眠れなかったので、観光に出かける前に仮眠をとっておく必要があった。

問五 — 線部(2)「救われた」の説明として、もっともふさわしいものを、次の①～⑤の中から選べ。解答番号は、**36**。

- ① 仮にこの旅行が第二の新婚旅行だとしたらみじめだが、実際には妻の希望による旅行だったのでみじめな思いはせずに済んだ。
- ② 妻は京都への憧れゆえに多少の困難は気にしない様子だったので、妻にいやな気持ちになってほしくない「私」はほっとした。
- ③ かねてから企画していた第二の新婚旅行が予定通りにいかずにいらつく「私」の気持ちが、妻の前向きな様子によって癒やされた。
- ④ 京都行きの列車に乗れる見込みが立たないなか、妻が「立つてもよい」と言ったことで結果的に運良く座席を得ることができた。
- ⑤ 「私」は長い待ち時間をみじめに思ったが、一方で京都に行くのがはじめての妻にとっては、期待によって疲労が軽減されるという結果になった。

問六 — 線部(3)「つきぬけて天上の紺曼珠沙華」の説明として、もっともふさわしいものを、次の①～⑤の中から選べ。解答番号は、**37**。

- ① 秋の空を曼珠沙華が切り裂いてどこまでも高く伸びていく様子を、ひものイメージによって表し、「つきぬけて」の語によってそれを強調している。
- ② 秋に咲く曼珠沙華の花の薄くやさしい色合いが、澄み渡った水色の空とパステル調の色彩をおりなす情景を描きつつ、

「つきぬけて」の語によってそこにスパイスを効かせている。

③ 死者の世界とつながるお彼岸の時期に咲くために彼岸花とも呼ばれる曼珠沙華が、見るものを天国へと連れていく危険な力を持つことを「つきぬけて」の語で暗示している。

④ 秋の空の濃い青さが、曼珠沙華の花の強い赤色とのコントラストによって、いつそう天の奥まで続いているかのように感じられることを、「つきぬけて」の語によって表現している。

⑤ 曼珠沙華が密生しているため、その色を見てると感覚がどんどん研ぎ澄まされて、ついには限界をこえてあたかも天上の紺のように錯覚されることを、「つきぬけて」の語で表現している。

問七

——線部(4)「私はここにきて、ようやく妻の疲労が回復してきたのを悟った」とあるが、ここからどのようなことがわかるか。もつともふさわしいものを、次の①～⑤の中から選べ。解答番号は、**38**。

① 妻は天龍寺で一息ついて疲れがとれただろうかと、「私」が気にかけてながら確信が持てずにいたということ。

② 妻がふざけて笑う様子を見るまで、そもそも「私」が彼女が疲れていることに気づけなかったこと。

③ 妻には、元気が出ると写真を撮り始めるという習性があるということ。

④ 念願かなって京都めぐりはたすまでに、妻は長年にわたって疲労をためてきたということ。

⑤ お気に入りの天龍寺にたどりつくまでのさまざまな寺院は、妻にとって疲労の原因でしかなかったこと。

問八

——線部(5)「古都京都の秋は、私たちが去るころからはじまるといった」という文は、何を表現しているか。その説明として、もつともふさわしいものを、次の①～⑤の中から選べ。解答番号は、**39**。

① 気持ちやすれ違いぐくしくする「私」と妻との関係を、秋の到来と微妙にずれてしまったこの旅の日程に重ねて象徴的に表現している。

② 秋がこれからはじまることを認識したと客観的に述べることによって、妻の感情に関心を払わない「私」の超然とした態度を表現している。

③ 秋が深まる季節よりも早く来すぎてしまい妻に京都のいちばんいい姿を見せられなかったために、「私」が若干後悔していることを表現している。

④ 一般的な理想とは少々異なった自分たち夫婦の秋の旅を遠景で眺めるようなイメージとともに、「私」が感じているしみにみとした幸せを表現している。

⑤ 弥勒菩薩半跏思惟像を仰ぎ見てこの旅が完成するまでは、京都に秋は来ないかのような気がするという「私」独自の不思議な感覚を表現している。

解答 国語

問題一				
問一				
1	2	3	4	5
1	5	2	5	1
問二				
6	7	8	9	10
5	4	4	3	1

問題二					
問一					
23	24	25	26	27	
1	4	5	5	3	
問二					問三
28	29	30	31	32	33 34
5	2	4	1	3	2 3
問四	問五	問六	問七	問八	
35	36	37	38	39	
5	2	4	1	4	